

## コラム 保存鉄道と鉄道趣味・ファン

本章では、やや脱線するが、結論を著述する前に、日本ではあまり積極的な活動が行われていない、地域と鉄道ファンとが密着した趣味活動である、保存鉄道に関して述べる。

くりはら田園鉄道、鹿島鉄道、日立電鉄など、2000年代には廃止になった鉄道が数多く存在した。「はやぶさ」「さくら」「あさかぜ」など、廃止になった列車・車輛もたくさんあった。鉄道ファンは、次々に廃止になる鉄道・列車・車輛を見送り、悲しんできた。

しかし、力強く保存の声を上げることはなかったのである。

日本において、廃止になった鉄道路線の利用法は、道路になるか、サイクリングロードになるか、更地になりまったく違う形で再利用されるか、放置されている。こうした廃線を巡るのが「廃線探訪鉄」であるが、鉄道ファンに取ってみれば、そうした鉄道が保存されるのが最善であり、なんらかの形で鉄道が走った記憶が残ってくればうれしいことである。また、鉄道車輛の保存にしても、いつでも動ける状態で保存されているのが一番良い。動かない状態でも、きれいな状態で保存するのが理想である。

イギリスやアメリカでは、そうした路線の保存を目的としつつ、観光需要などに特化した保存鉄道がいくつかある。

例えば、イギリスのグレート・セントラル鉄道では本線規格の路線が保存され、大型蒸気機関車が走行している。同じくイギリスのノース・ヨークシャー・ムーアーズ鉄道は『ハリー・ポッター』シリーズで撮影に使用されている。アメリカのサンフランシスコ市営鉄道Fラインは旧型路面電車などで運行されており、観光客が多数利用している。

これらの鉄道は運賃設定・運行本数などは、普通鉄道より割高、運行本数は少なめだが、定期的に運行されているという点は「保存」鉄道としては十分である。

日本では、廃止された路線の、特定の駅構内で車輛を保存し、週末などに運行している例はある。南部縦貫鉄道（野辺地～七戸）やくりはら田園鉄道（石越～細倉マイパーク前）などがある。また、日本鉄道保存協会には軽便鉄道の保存を行う羅須地人鉄道協会などが所属しており、北海道や千葉県で活動している。機関車の保存では、近年廃車になったEF65型535号機の

保存会も発足している。

だが、「本線」に相当する鉄道を保存している日本の団体はまだないのが現状である。現在そのような意図を持った団体として、2005年台風14号で甚大な被害を受け、廃止なった高千穂鉄道（旧国鉄・JR高千穂線）の一部路線を引き継ぎ、保存鉄道としての再帰を図っている「高千穂あまてらす鉄道」がある。

これら軽便鉄道や保存鉄道は地域振興や街おこしの材料として考えられているが、鉄道ファンも積極的に関わっている。だが、地方に所在することもあり、維持はなかなか難しい。

とはいえ、こうした「本線」鉄道路線をできるだけ現役当時にちかい姿で保存をする、という方法には次のような意義がある。

鉄道路線は先人の「遺産」であり、地域の「記憶」であり、地域以外の人々とも共有することで、地域の輪を広げる力を持つということだ。

経営的には成り立たなかった鉄道路線でも、単純な数字では補えない様々なものを秘めている。行政組織を簡単に頼るわけにはいかないが、鉄道路線として存置することで、時刻表や地図にも立派な記載が残る。そうしたメリットもある。完全な私営組織では保存や経営にも無理が生じる可能性が高いので、施設保有だけでも地域行政組織が担うのが最も理想的な保存鉄道であると思う。

いずれにせよ、いたずらに廃止を悲しむよりは、なんらかの形で保存を行う方が良い。そうした熱意を鉄道ファンは持っている。鉄道趣味が、これまで以上に日本社会で認知されるためには、こうした地域社会と密着した鉄道保存活動を積極的に推進していくべきなのかもしれない。

立ち上がれ、鉄道ファン！

(松葉 隼)